

医学英語 II

科目責任者 矢澤 卓也
学年・学期 2 学年・通年

一
学
年

I. 前 文

これからの医療に携わる医学部生の皆さんには、①臨床や研究に必要な最新知識を得るための文献の読解力、②症例報告や研究成果発表のための論文を執筆する能力、③国際学会等で発表・討論できる力、④外国人患者の診療や海外での医療活動に必要なコミュニケーション力や診療録を記載する力、などの英語力が必要となります。また、感染症のパンデミック等の緊急時には英語で発信される最新情報を膨大な情報群から素早く正確に取捨選択することが必要となり、この様な力は①の読解力無しに発揮することはできません。

医学英語 I ではこれらの力を養う上での基盤となる医学用語 (medical terminology) を学び、用語を正しく理解し、実際に使用できるようになることを目標にしています。

II. 担当教員

- 徳田 信子, 他担当教員 (解剖学)
- 矢澤 卓也, 他担当教員 (病理学)
- 杉本 博之, 他担当教員 (生化学)
- 神作 憲司, 他担当教員 (生理学)
- 室山 良介, 他担当教員 (微生物学)
- 川合 覚 (実験動物センター)
- 小嶋 英史 (研究連携・支援センター)
- 藤田 朋恵, 他担当教員 (薬理学)

III. 一般学習目標

基礎医学で用いられる医学用語 (medical terminology) を理解し、英語の医学文献を読解できる能力を養成する。

IV. 学修の到達目標

1. 英語の医学用語の意味を正確に理解し記載できる。
2. 英語の医学文献の概要を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))
- 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
- 6: その他)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | アクティブ ラーニング |
|----|---|---|----|----|---------------------|--------------------|----------------|
| 1 | 4 | 1 | 月 | 2 | 医学英語 II オリエンテーション | 矢澤 卓也 | 1 |
| 2 | | 1 | 月 | 3 | 「解剖学各論 I」で扱う医学用語 | 徳田 信子 他 担 当 教 員 | 1 |
| 3 | | 3 | 水 | 2 | 「解剖学各論 II」で扱う医学用語 | 徳田 信子 他 担 当 教 員 | 1 |
| 4 | | 3 | 水 | 4 | 「医学分子生物学」で扱う医学用語 | 矢澤 卓也 他 担 当 教 員 | 1 |
| 5 | | 5 | 金 | 2 | 「植物性機能生理学 I」で扱う医学用語 | 神作 憲司 他 担 当 教 員 | 1 |

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担 当 者 | アクティブ ラーニング |
|----|----|----|----|----|----------------------|----------------------|----------------|
| 6 | 5 | 9 | 木 | 2 | 「消化吸収と栄養の代謝」で扱う医学用語 | 杉 本 博 之 他 担 当 教 員 | 1 |
| 7 | 8 | 19 | 月 | 1 | 「神経解剖学」で扱う医学用語 | 徳 田 信 子 他 担 当 教 員 | 1 |
| 8 | | 19 | 月 | 4 | 「植物性機能生理学 II」で扱う医学用語 | 神 作 憲 司 他 担 当 教 員 | 1 |
| 9 | 9 | 2 | 月 | 2 | 「神経生理学」で扱う医学用語 | 神 作 憲 司 他 担 当 教 員 | 1 |
| 10 | | 20 | 金 | 1 | 「薬理学」で扱う医学用語 | 藤 田 朋 恵 他 担 当 教 員 | 1 |
| 11 | 11 | 5 | 火 | 1 | 「病理学総論・総論実習」で扱う医学用語 | 矢 澤 卓 也 他 担 当 教 員 | 1 |
| 12 | | 6 | 水 | 3 | 「免疫学」で扱う医学用語 | 小 嶋 英 史 他 担 当 教 員 | 1 |
| 13 | | 11 | 月 | 1 | 「微生物学」で扱う医学用語 | 室 山 良 介 他 担 当 教 員 | 1 |
| 14 | | 13 | 水 | 3 | 「医動物学」で扱う医学用語 | 川 合 覚 | 1 |

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験成績（各領域の英語問題の合計）で評価します。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

1. 基本の101語の語源から学ぶ医学英語 第2版。津波古澄子，マリオン ゴボスキー著，日本看護協会出版会。
2. 図解解剖学辞典 第3版。山田英智 監訳，医学書院。
3. 各領域の教科書，参考図書を参照のこと。

VIII. 質問への対応方法

講義時間中に各担当教員に直接質問するか，各基礎系科目の科目責任者にアポイントをとってから質問に来ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|--------------------------|--|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | ◎ |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | ○ |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | ○ |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | ○ |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | ○ |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | ◎ |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | ○ |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | ○ |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | ○ |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験に出題される medical term はいずれも重要な医学用語であり，医師として一生使い続けることとなりますので，知識をしっかりと定着させてください。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：講義の分野の英語医学用語に目を通しておく。

事後学習：講義の分野の英語論文を検索し，興味があるものを通読することにより，該当分野の英文に慣れ親しみ，用語を定着させる。

XII. コアカリ記号・番号

PS-01-01, PS-01-02, PS-01-03, PS-01-04, RE-02-02